# 鶯宿雜記

百十一
百十二

238
289
1

国立国会図書館　　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

鶯宿雑記

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

鶯宿雑記巻百拾一草稿

武士道覚悟之事書　平士可有覚悟条目

一主常ニ可為覚悟者今日主君ノ出陣急ニ供ヲスヘキト思フ人ヘ常ノ支度肝要ニ其二日主君ノ着スル品ニ不残可持支其三日下人ニ持スル道具ニ可有之ト其三日陳小屋ヲ可仕道具ニ能并ニ可持ト其四日兵粮ノ訳能可弁覚悟者ニ此五ヶ条小刀又ニメ根ニ心此ま覚書ハ古人物語ヲ以書記者也

一下帯仕様ハサカリヨリ後三ツ結ニテ一幅ニメ夫ヨリ二ツニ切サキ両方取テ前ニテ結フヤリ切サキメル処ハ芋ニテ結ヒ切置ヤリ

一戦場ニテ下帯ノロキ又ハサカルヤウナラスト不叶因茲下リノ折下ル処両方ニ糸ヲ付置（掛ルトモ云傳アリ）此段ハ人ニ覚悟次第ヤリ

桑名城門
駒井家蔵

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一帯結目高キすハ鎧ノハスレニ当リテ悪シ又ハ盆ス二後ロ（ハテマハラス故ニ前ニムスフナリ

一下帯ハ麻ヲ吉トス川へ入物ニテモ早シ股ノスレルコトナシ

一股引ノ色ノ仕様有之絹廣ハシタル見物ヨシ然ニ川水ニ股ヒタシテ悪キ由挟スキタルハ股カユクナル由其程可有分別ナリ

一足入又裏附ノ股引ハ平士ハ不用水ニヌレ汚レタルすら洗テ後見ル

キトモ云傳ルニ裡アルハヌレテモ悪キヨシ

一股引ニ水スキ有アリ冬ノ野ハ吹スカサレテ風廣ニ通シハ気味悪キヨシ

一股引ハ木綿ヲ上トストモ云傳タリ尤裏ナシニメ女左右ノマチヨリモノ裡ニクロキヲヒテ拵タルカ吉ト云

一脚絆ハ見物当ニ其人ノ物スキ次第也然ニ麻ノ袷脚半ヲ右来ヨリ用ルヨシ日ニヨゴレ安シ洗ニヨシ又早クチルモノナリ

一草鞋掛ハ木綿ニ重ニ裡トカウトノ刺ス処ハカリハ三重ニメ苧ニテ刺ナリトゲスカリカブ等不通トモ傳フナリ

一草鞋ハ早稲藁ヲ堀タル井ニ七日又取上テ苧ノ如クナル程ニ打テ堅クカキワメルカ吉ト云ル者ニ乳ノ有ヤウハ木綿ヲキヲマセテカキワクルナリ尤紋長ニメハキヤウハ踵アテノ沼渡リヨシ

一ツラスキトモ云ハ山中物ニテ踵抜ノ可有処用之牛皮ヲ草鞋ノ形ニ大切ハシ縁ニニトヒ穴ヲアケ紐ノクヽリノ如ク苧縄ヲ通シ足ノカウヘ引カブセルヤウニスルニ皮袋ヲ引ク仕タルモノ如ク仕方ナリ但暫ク水ニ浸シオ

ハカサハ履カメシ

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

一ハキ替草鞋ハ面ニノ腰ニ付ルナリ

一下着ノ一夏ハ紬ノ一重袖長ニ常ノ如ニメ着ニ又麻ニメルハ長陣ニ
ハ身スレテ悪シ中ニ一枚ニ汗ニスルハ皆同前シ襟杯ヲ立テ仕ルコト
袖ニ仕立ルコト右人モ用ルヨシ左ニ是ニ襟ニテすこテ見ユル物ニ
モすこト申傳ルナリ

一冬着ハ綿入ニ仕ルニ是又紬ノ類汗ニスレテモ宜キ由袖ハ手袖ニ
仕ルニ長ク脇ノ辺迄ニ仕ルニ多時持サル人ハ常ノ羽織ヲ用ルニ縞縮
濡テモ身ニツカス候ヨシ

一下着ハ鎧ノモニマガヒ候色ニ古トニ是ニ引スレニ紺ノ色見ルすハ
歟ノ目當其色ニ有モノニ目ノ行処必ス籍ニ左モ向モノナリ因是毎
益ノコトメルハキコトナリト申傳ルナリ

一帯ハ一幅ノ布ヲ引コキテ用ルニ結目高カラヌ様ニ可仕ニ惣テ下帯
ノ結目股引ノ結メ肌着ノ帯ノ結メ一ツ所ヘ揃不申様ニ仕ルコト習也
此三物ノ帯ノ上ニ佩ク刀ノ紐アリ是ハ股引ノ紐ノオニテ留ルコト習ナリ

一上帯四重ニマハスモノ也真中ニ結切ヲ脇ニ致シ置ヘシ何時モ其結切ヲ脇
ニ当テ面スヘシ留ニ前ニテ結ヒ諸事スッキバイヌメ能ヲサヘベシ軍中ノ手枝ニ
ノ羽織ヲ下着ニスルすハ具足着ルニ着実按ニ前ノ不審ニ不審昔ノ兵卒ハ具トニハ予載利鈔ヲ失明録ニ云ニ
寸先タスキヲ掛ル物ニ裨ノ結メヲ胸ニ当ルヤウニ仕ルニ後ニハ
エズノ悪シ前ニアルハヒトメユルメ自由ニ古人ノ法ニ

一先馬上ノ具足ハ一番ニ勝当是重切ニ着ヒ馬ヲ入ルニ着セスメヌ時味方

馬上ニ或ハ踏シハ子ラレタルニ理多シ二番ニ佩立右ノ勝負ノ寸股ヲナグラシメンキ為ニ并一馬上ノ籠ハ不サキ下リ安ク大形股ニ当ル故必佩立ヲ用ルシ依之急ニ下立ニハ踏込ヨシ勝負ニハ板吉ト云傳ルシ又板佩立カケハズシ迫代初ルコナレ共面様ヲ無テ可然カ臑当十王頭モ馬上ノ籠敵引取ント方膝ニ当ル故ニ用ルシ作云笛固臑当ハ大将ノナサルヽコニ非ス但無理ノ臑当吉ヽキ様習アリ

一下立ニテ繁キ取相ノ寸ハ佩立臑当ハ不仕ト云傳ルシ左ニ著具ヲツキ難キ寸ハ面頬ノ鼻ヲハスシ又カケズ共不苦候由又極寒ニ面頬ヲ云テ言語セトリ難キ寸ハ習有リ臑当ハ草鞋ヨシ云傳ルナリ

早具足

一胴ヲ籠チヲ常ニ掛置テ繰メニ上帯ヲ通シ置テ草摺モ掛外シナルヲハ掛置テ一束腰当上帯ニ通シ置テ急時ハ夜打夜立ノ外走ハ無之テシ此寸ハ具足ハリ着可仕シ小手ノ仕立ヤウ腕ノ内ケリテカイナノ内ハ鞍掛ニ付ルシホタンシメハ久シ指ノ泊エタルヲ掛タタシト云傳候

一胡此仕立置寸ニ至テ先胴ヲ打ケテ相引ノ小セ高紋ヲシメテ上帯ヲ仕ルシ繰メニ付置タル故サシウツムク迄モナク帯ヲ仕ルシ又帯ノ跡先モ極リ名故ニ早引回スリ暗ト雖モカマヒナキシ帯ハ踏リ上リテ一メヽメテ回スヲシ帯地麻ノ一幅引コキテ用ルシ結目ハ前結シ一幅ノ麻ヲ代袋グケテスルナリ引コキタルハ子ヂレコヲクメツナリ

一此次ニ陳刀服差也兼テ一束腰当帯ニ付置シ佩ヲ早シ指替ヲ下人ニヤスルシ折タルヲ為ナリ

一此次ニカウカウ草鞋ナリ

踏ノ子不審

一繝竺ツケ宜常ニ仕掛置テ曽ヲ抱キ双ノ紋ヲ一度ニ引ト早クシテルナリ
一曽ヲ仰向置シ取ヤウハ両手ニテ眉底ヲ取シ両矢指ニテ双ノ紋ノ朱ヲ
オサヘテカフルナリ曽ユカマス
一右ノ段ニ著ノ其終ニ双ノ小チヲ指シ指ヤウ大指人サシ指ト〈輪ヲ掛ルナリ
一置袖ハ押前計トモ傳候一戦ノ求モ其人ノ心次第ニ可掛ナリ
兼テ〈ニテト一ツニ付置ヘシ又急時ニモアラハ小チ小腕ノ紋ノ小ハセヲ掛
〈シ或曽ヲ著セサル前ニ面頬ヲ頭ニカケノ緒ニテ頭〈掛置曽ヲ
カフル〈シ寒ニ気ハ甚ニテ云カタキナリ掛ルナリ右ヨリノ習ナリ
一役小旗ハ早臭ノ時ニ前方ヨリ指テ置シ陳小屋ニテハ難弁ナリ小旗

ヲサシテ門ヲ過ル一成程及リカ〈リ通ル〈シウツムク程旗直ニ立テツカ立ル
シ大形竺ナ折ルシ又ハ靡キテツカ〈ズツカ〈タリトモ云ヒハリテ不折ナリ

## 押備

一或ハ二行或ハ二行也遠国ノ城天下ノ御成敗ナリ敵地或ハ二日路同地一
日路ハ鎧ヲ不著乱世勢ニ乗メ遠ヲ籠ラスハ其身ノ城下ヨリ鎧ナリ
一出陣ニ前禁制ニ三ノ備定行列ハ其定有テ出馬シ押様ハ其御大将御心
次第又其一将ノ所存ニヨリテ様〈シ其定ノ法ヲ能弁〈知テ可守ナリ
一行列ノ寸馬ハ小ニ先ハ惣ノ下人ハ行列ニ遣シ其身馬取鎧カ
リニテ引下リ用支相建シ追付本ノ行列ニ乗ナリ大軍ノ寸ハ歩行ナカラ
小便ヲモ仕ル法ナリ
一押備ハ先ノ番見ニテ目ヲサシ二番見ニテ飯ヲ食ニ番見ニテ伴ロ〈出張

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一番太鼓ニテ先勢押出シ二番太鼓ニテ
脇備四番太鼓ニテ御旗本押出スナリ五番ニ後備六番ニシテリ備七番
ニ小荷駄備ナリ段々相図ハ御大将次第法ハ左ノ如ヒナリ

一遠国其城ヲ攻ルトテ云ヒ皆味方地ナル故ニ一日三十里余モ押ノ有ヘシ此モ
大軍ノ様子ヨリ難成サレ共成タケキノニモ不可有乱国ニハ山川林木ニ心ヲ
ケヒ前後ヲ揃ヘ全ク押行ス一日五里七里難行マシテ大軍ヲ引見シ不叶ハ
先朝暗キニ不出晩ニ野陣ヲ張ヌ小屋場ヲ見立テ小屋ノ心ヲナシ薪ヲ
取セヌト仕ル故ニ遠ク押ノ不叶マシテ狼ヲ
敵ニヨルトテアリ水草林木便リヲ得ヌトテアリ専可辨ノナリ

一小屋割ハ陳場奉行仕ル小屋其地其時ニ随ヒ広狭有ヌトテ先生ハ
坪下ハ二坪ニ或ハ三人当ナル一ツ大焼所一坪馬ニ所一坪ヌト心得ヘシ是ハ
四五日モ逗留ノ小屋ヲモリナリ

一夜ノ野陣ヌトテハ又格別ニ四方底迫有モアリ平野ニ陣取伏ヌ可心得渋
紙ヲモ冠リテ漸ニ一夜ヲ明スナリ嶋原ニテ初テ城近ヘ押寄ル人スモ如
此ク去出ニ虎落指箱抔ハシラヒ申ニ野陣ノ為ニ常ニ馬圭台羽ヲ
用ル由云傳ルナリ

一陳ニ屋ノ具其内ニ集テ追ニ陳ニ屋ヲ掛ヘ敵ノ方ハ草迫ニモ洗帋張ニモ
可仕内方ハ面ニ幕ヲ打ヘシ先普請初ニ陰所ヲ作リ初ヘ依之セイタ可持具
一風吹ニ吹倒サレヌテ并一ニ鉤縄ヲ掛ル心大雨ニ内ヘ水合サルヤウニ四方ニ土
手ヲ女ニ付ルナリ下敷ハ刈コニヲ敷ナリ
一薪ハ青刈ニ初日ニ多ク取候ヘハ能ケヘ庇心ノ候ヘ放サル由ヲ去テ場無キ
モノナリ陣屋ノ上ヘモ女ナラテ上ラレヌトナリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一馬屋ヲ三テ馬ヲ繋物ヲ對陣ノ刻ハ報ハ当方ハスレテモ虚有置ヘシ
馬屋ハ雨ヲオヽヒ寒ヽ天ニハ風上ヲ厭フ計ヽ乍去是ハ不自由ナル處ヽ能可住者ヽ
一大将ノ御陣ヘ行タルヲハアンヒキノ上ニ可伺公ヽ人ニヨリカクノ筒ニテ泊番住
丁有ヘヽ竹ヲ二ツニ割洗希ノ両耳ヘ級有テ置一方ノ二本竹ヲ地ニサヽレ又
一方ノ二本竹ヲ未ヲタヲメテ地ニサヽレ其内ニ宿住ルヨシ
一私ノ用夏有ト云ヒ他ノ陣切ヘ行丁人ヲ遣ヲ丁替ヲ法ヽ矢文ヲ下ヲ屋ノ
処ニ有之則ハ早ヽ頭ヘ渡ス古法ナリ
一陣鍋可持丁乱世又籠城ニハ地焼ヲ仕リ百姓山中ヘ逃ヲ寸鍋ヲ掘埋
テ必味方ニ事ヲ欠スルモノヽ陣鉦陣鎌鉄鍬世紐可持丁草鞋ニ夏ヲ
カク物ヽ可心得由申傳ヽ陣中水抜丁小身ハ具足擔ヲ用ルナリ
一陣中馬ノ飼ニ有者ヲ置ヘヽ是ハ糠代ニ入テ喰丁秘ヲ又也ト申傳ルヽ

一先陣ヲ陣堅メニ陣ニ陣ト段ヽニ陣ヲ取ヽキ陣物奉行小屋大割ヲメ
渡スヽ其内ニ小荷駄モ来ル物ヽ中ヽ早ク陣具モ取丁難仕ナリ
一陣拵ト云ハ掛ケル屋ヲ拵ヽ焼捨ルナリ焼捨ルヽモアリ
一陣屋拵ハ続クヤウニ仕ヽ惣ヽ厩ト小屋ノ間七間アル物ヽアケ大ヲ厭フ也
備之事
一一ノ先足軽ヲ五足軽大将後ニアリテ下知ヲ仕ルヽ間十四五間モ跡ニ長柄ヲ
立奉行続キテ下知仕ヽ間三間有テ惣侍五ルヽ其次侍大将五
右ニ使武者其跡ニ雑人ヨリ馬印ハ侍大将ノ前ヨ大敷同断旗ハ雑人
之前ヨリ皆下リ立テ役人ハカリ馬上ナリ
一一番籠ト云ハ鉄炮ハタヽクト云長柄共人ト同ク勇士進ニテ名集掛一番籠ヲ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

仕ル之此又ニテ籏付シ不合能首ヲ取ヲ籏下ノ高名ト云之勝負随一汐法仕
一一番ヲ勝ヲ負タル者必二番籏ヲ合スルヲ二番籏ト云リ籏下ノ高
名同断也三番籏ト云ハ全ク之惣掛リナリ
一両陣敵テ退キ備ヲナシタルヲ又両陣勝負未決内ニ双方ヨリ見分
ニ出タル者共勝負仕ルヲ場中ノ籏同前ト云リ
一敵負テ崩シ候砌其内ニ引下リ殿リシテ退ク士ヲ討取ヲ崩際ノ
高名ト云リ敵ノ勇ヲ感シテ専高名ナリ
一敗北ノ敵ノ中ヨリ小返シ又殿仕ハ勇ナラン是ヲ討止メノ高名ト云リ
此外ハ追首ト云シ殊更甲ヲ着サル首ハ着ト云テ申シ上ル
一味方崩シ申節踏ニジラヒラ仕ルヲ殿リト云シ頸ヲ取テ猶静ニ
敗ヲ殿リ高名ト云シ敵ノ一先ニ進ミ来ルヲ討取故高名ト云シ味
方小返シ殿ニハキタル手柄シ場ニヨリ各其差別強弱アル（シ
一馬上ヲ組討川中ノ組討組討三段共ニ物ニヨリ差別アルナリ
一籏服ト八籏ヲ合スル服詰シ一番太刀二番弓三番鉄砲ト相定ル
一扉乗一番乗二番乗シ三番乗ト云テ全ク之坚固ノ地ヲ乗ル然ハ
下シ坚固ヲ頼シ内ニ能人無之故シテ不坚固ノ地ヲ上トス殊ニ木戸隆矢
倉隆ヲ乗タルヲ尚手柄ト仕ルヨシ其持口ノ将強弱ニヨリ乗取ニ又
一木戸隆ノ籏同高名ヲ強シト云傳ルシ木戸隆ニテハ必服ニ添テ髪
内ヨリ一ノ風キ出ス中通リハ崩シ安シト云傳シ木戸隆ノ高名ハ
稀ナルナリセハシクテ頭ヲ取テ難叶故
一夜討ニハ首ヲ取テ無用ト下知有モノシ乍去敵ノ居ル処（行ル験ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

首取ル程ノコトナシ乍去今夜ノ騒ト云上ハ初ノ勢メ次ナニハ敵陣道具持退ケ是即シ城ヨリ外ヘ討ヲ夜討ト云ヲ出テ戦フ夜軍ト云ナリ

一鳥毛ヲカク〻必上居ヲ落候ヘ共ノ鳥毛ノ入ル所ハ見定ケ引合ニ入ルナリ

一屍数ノ籠恒数ノ籠堀数ノ籠投籠皆臆病籠大籠ト云也

侭萩田ヲ馬杯カ投籠ト無類ノ褒言ニ其地其時ニヨルヘシ

一川越先陣又二陣迄ナリ其跡ハ惣跡ナリ

一昼ハ小旗相駿前ヲ相言葉ニテ味方討ヲ厭ナリ夜ハ胴肩衣鉢巻専相詞ヲ以テ味方ヲ討ヲ厭シ相図モ敵ヨリ替ルヘシ相言葉ハ時ニ替リ又戦毎ニ替ル者シ夜ノ戦ニハ城ヘ返リテモ陣小屋ヘ戻リテモ同前ニ立スクリ居スクリト云テ仕ルナリ敵ノ交リ入ヲ材ヲスルナリ

一戦場城責ニ不限用友ヲヲ負ル引掛退モヲ柄ナリ乍去切ヨリ前ニ勝負ヲ見受ケカラヲヲ負ニカラヌルヨハ疵病ナスヲ手負言葉ヲ掛テ此一身ヲ助スニハ疵病者ニ可有杯ト急カシキ家中云掛ルヿ有シ是ハ必ス助ル法シ大体ニテハ名杯討呼カケル分ニテハ先ヲ拵ト断テ可通必先ヲ拵ト云シ言葉ヲケカサヌモノナリ

一首ヲ取ルヿ馬上ニ而ノ面縛ヲ二付ケル縄ヲ突貫夫ヨリ口ヘ縄ヲ通スナリ兼テ首代ノ持士ニ大剛シ持ス明ル侭ニテ不戻者

一敵ヲ籠付ル時多ニ首ヲ取ルナシ能ニテモ籠付テ其後首ヲ取シ頸ノ討ヤウ鎗ヲ引上ホンノクボヨリ切ナリ

一首ヲ取候ハ早ク下人ニ為持御大将ヘ可遣又組付ノ士ハ其ニヲノ将ヘ可見乍去野心ノ首ハ見セ申ニ不及口上ノ披露ハカリナリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一再拝團持タル人大将分ニ必首ニ添テ持可敢又其家ヨリ母衣羽織
替リ差物賞翫ニ有ベシ然者其品ヲ知テ取可敢母衣掛武者ヲハ必
母衣ニテ首ヲ包ムモノニ母衣絹ヲ四ノ折ニ重ヲ頸ニ敷ヒ一重ヲ頸
ニ掛テ実検ニモ入ルモノナリ

一竹束付ル事古法ニ城ヤシトテ惣軍夜半迄トヨメキ半夜ヨリ静リテ
敵ノ油断ノ処ヘ堀路ヲ付テ仕寄スル竹束計ニテモ仕寄ナリ大風
大雨ニマギレテ仕寄モアリ西ヲ責ル内ニ東ヘ仕寄モアリ付様ハ手ウシロヲ結ヒ竹ハヒシキテ右ヨリ四ツ法ヒ幅ハ
一人ニテ持積ル故ニ廣ク仕難シ持ヤウハ肩ニ打掛テカサシテ行ヨウ
シロ退ク足ニテユウシヘモタセテ付敢ル竹ハ二挟間ヲ切テ鉄半
切掛テ付ルヒ竹束ニ貫二通入物ヒ長ケ竹有次テ仕寄ハ侍ノ役ナリ

一屏集ニハ陳刀キヲ又ニハサヽズ惣常押立ナリ一束腰当ハ自由ヨシ馬筆
カタキニモ同断ニヒナリテ同スナリ

一屏集ノ籠ハ太刀ヲヒニ腕貫ヲ付置テ腕ニ掛ルヒ腕貫馬上ノ太刀ヲ
ヒ用屏集ヲモ又如右

一鎧着テ独リ馬ニ乗ニハ胸カヒ〳〵踏掛ルナリ鞍カヘラス軍中腹ニ重
腹帯ヒヲヒニテ綱ハ前ノ四方ヲ引通スナリ

一馬上籠掛ハ帯ニ付置タルヨシ時ニヨリ入ル物ナリ

一馬上陣刀抜ル古法可有ヲ綱ノ持ヤウモ古法アリ

一曽下ヨリ汗目ニ入テ難義ナル物ヒ無則曽下ノ鉢巻ヲ用ルナリ仕ヤウ
後ヲサケ結ハズニハサカフナリ

一雨具ハ常ノ盾中ノ如ヒ敵近キト聞マヒテ貝及ヒタル程ノ下ニテ雨具

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

ハ不用近来羅紗ノ能板頭ヲ拵ヘ曽テ下カフル仕様有ト云傳可然カ
一曽テ立ハ自身ニ庇ノ者ノ頭ヲ曽テ立ト心得クフセヘシ又曽テ立ハ何ノ用ニモ外ニタツコトナシトテ鍵鎧ニ掛ル積リモアリト申候是ハ鎧持替ニモ可成間可然カ
一水呑ヲ持ツ宜シ乍去ヲヌニヨリ其ノ物モ苦ニナルヨシ梅干ハ必ス可持ヘシ入レハ乾キ止ト申也腰兵粮ハ四季共ニ握リテ持ツヘシ飯ニ塩気有テ喰安キ心奉良漬ノ仙ヲ添モ吉汁同前ニナリテ飯喰ヨキシ　一味噌ノ持ヤウ摺テ蒸ニ包ヘシ
一軍中ノ刀鎧錆サル仕ヤウ頭ヲナテ〳〵油ヲ塗ヘシ
一役差物竿ヘサシテ結ノ上ウザルヤウニ紙ニテトムル物ナリ
一馬縫位ハ後輪有ヘシ喰ヒ候品ハ御中ノ馬ニカヲスニテ喰ヒ申ス如シ
一濡鎧ハ砂ヲ取添ル法ナリ近来藁ヲ取添ルモ可然歟

一戦場ヘ帳紙持ツ引合ヘ可入下ニ付タルハ川ヲ渡ヒハ濡テ用ニ不立ト申候
一首実検ノ寸ハ銭弐有モノ〻首ノ持出ヤウカニ数枚ヲ首ニ数ヒ左ノ手ニテ枚ヲ持大指ヲ首ノ切口ヘ掛テ右ノチニテ頭ヲトリ左ヨリ右ヘ廻シ首御目ニ掛ル方ハ右ノ顔也右ノ左右ノ定ハ我左右ノ寸ナリ頭ハ一寸カリ御目ニ掛候モノナリ
一敵大将ノ首ヲ取ヌラハ頭對面トシテ又作法別ノ事其御家ノ風流ヌニ可有物カ
一御大将ヘ申上ツ必證拠有ツナラハ不申二重二陰スロ上アリ
一使ニ行所行様申所申渡所證拠ヲ取有之候
一合戦初ノ候使ニ行ス時ハ必指テ其場可決勝負人数ヲ上ケ候使ニ行ス時ハ其所ヲ去大将ヲ引具シ共ニ先ヲ立テ引上ルナリ合戦初メ使ニ無之候
一戸勝負初ルヲ見指返ルハ臆病ナリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一戦場ノ水呑ハ手拭ニ水ヲこメシテ吸呑ナリ
一馬ノ口緒手ニ有候小柄杉可有之馬ノ口ヲ洗ニ又自分ノ水呑ニモスルナリ
一合戦ノ日何者ニテモ敵地ノ者ノ首ニ有之候者可取初首トテ早速左将ヘ献スルモノナリ初頭行古法有之
一馬上ノ詞事切ハ敵行軍ヲ扨ヲエテ能馬ヲ撰テ事切ニ敵敢乱サセ討ナリ両陣ノ間ヲ事切直ニ敵ノ同扨ニ成ハ事切ハ敵行軍ヲ扨ヲエテ能馬ヲ撰テ事切ニ敵敢乱サセ直ニ城中迄ニ事迄ナス ハ事入ニ成ハ敵ノ同扨ニ成ハ事切ハ敵行軍ヲ扨ヲエテ能馬ヲ撰テ事切ニ敵敢乱サセ
リ条迄横ヲ入ルヲ馬ヲ入レルトニ云ナリ
一付入ト云ハ城中ノ敵ヲ追迄直ニ追ヲ付入ト云ハ城中ノ敵ヲ追迄直ニ追ヲ付入ト云ハ城中ノ敵ヲ追迄直ニ追ヲ
夜ニヒソカニ事取ハ名捕ナリ
一オヒクトハ餌ヲ食セテ敵ヲオヒキ出シ其敵城中ヘ未陣ノ内ヘ戻ル事

様ニスルヲ跡ヲ取切トニ云ニ敵ノ飯ル跡ヲ専陣ニ不限敵ノ飯ニヲ障ニ也
一夜迄ハ敵味方ノ境ニテ繋ニ有ニ云ニ一備ニ備ニテ仕ニ送備送足軽此ナ人ニ勢揃ノ作法有之集所ヲイテ繰引有古法護ノヲ焼テ火色ニ傳
一夜迄ハ時ナラス有之物ニ待受トニ云ニ有之
一夜迄ノ寸火ヲ用ルニ西ヲ欲討其東ナリ
一馬上ノ籠ハ敵ヲ左ヘ受テ敵ノ右ヘノクヘシ我馬ヲ厭テ敵ノ馬ヲ屈ツクヘシ習有之軍地利ヲ可心得ナリ
一馬上ノ太刀ハ腕ヲ貫ヲ掛テ敵ヲ右ニイト可受馬上籠太刀ハ氏ニ鐙ノ踏ヤウヲ傳馬上ニテ敵ノ歩者ト組引ニ歩太刀歩籠ニ戦習有之
一川中ノ組討ハ水上ニ立ヘシ暗中ノ籠合身ニコイヲ本トメ柄ト柄ノヨルヨヲ傳

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一分捕ト八外ニ敵モナク心静ニ敵ヲ討取ス八敵ヲ討其馬ニ乗ケテ
其足馬等ニテ取ヲ分捕ト云ナリ
一陣羽織ハ遠国ヘ押行ス又陣中ノ侍ノ印ナリ
一タケキ川ニ乗込ス八障泥ヲハズシ馬ノ尾ヲモ結ヘシ
一馬手綱タルス休メ候ハ必スクミ死ナリ乗回ス内不苦
一筆捨馬芝繋ス口傳山ノカケ筆落口傳川渡馬定口傳
一馬鐙ノ古来木綿袴用候ヨシ
一馬鎧ノ下味方ノ直具ヨリテ馬驚ク多シ故ニ用馬面ハ馬左ノ
寸向馬雖恐於戦場勇テ恐ルニ毎之モノナリ
一手綱ノ内ヘ鋏リヲ入ルヿ近代イマシ川渡ニ長手綱ナラテハ難用
一泓田沼見知ヿ砂川ニハ砂マクレ可知川ニ陰陽山ニ阴阳川江馬
ノ上ヲ物可知流ニハ川幅ト流トヲ考上ヲ物可弁川浅深ノ事
一幅廣ニ數走ス稲葉内走ルヿ口傳
一寒ニ中テノコヽヘタルヲ暖メヤウ
一暗夜歸ノ見ヤウ我ヨリ先ニ人通ト不通ト知事
一鍋ヲクヒテ食スルヿ湯ヲ湧スヿ但クヒテ米ヲ搗ヿ塩水ニテ飲
ヲスルニ協気ナキ仕ヤウノヿ
一相図ノ火并火見ヒ物相図ノ小旗ヲ所ヲ
一伏カヾリ可知ヿ伏ト八森林村山ホニ伏メ大勢ニテハ深草田畑
ト伏テハカヾリ

右聞書ハ中条流ニ傳也然ヲ佐藤忠左ヱ門傳ヲ
留ル者也元禄十五壬午年月日

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

享保十六年亥年初夏勤暇之日寫之　藤原筆実

此冊簡而要何用多為天明五己酉年四月借有藤氏而謄写之者也南谷美之筆跡又美之謄寫之本之以下写之置者也

一文政五壬午年御轉任御任槻一件　三月朔日

一御轉任御任槻一件　自月光至任無之表向五ツ半時分登城仕候事

一今已ノ別冊無之候

之方様　右京様　出御

之方様御性質未御衣紋之改右京様御衣紋之図有之

高家宇都右出也　御目見

之方様　右京様　上野介様　御目見之図

[illegible]

但御冊式ノ自筆相認之

之方様　右京様　上野介様　御目見之図

[illegible]

但御冊式ノ自筆相認之

[illegible]

但御冊式ノ自筆相認之

[illegible]

但御冊式ノ自筆相認之

一 告使真純安濃守於庭上 附屏進ら二あり 但御式ハ白書院ニ出仕 御上使ハ西九ノ御畳縁 御座中程ニ着座 御式ハ九ノ通

一 副使吉良内記於ハ 宣旨於ハ 家中衆ハ門ヨリお次ハ門ヨリ 但御式ハ白書院ニ出仕 御上使ハ西九ノ御畳縁 御座中程ニ着座 御式ハ九ノ通

一 告使真純安濃守於庭上 附屏進ら二あり 副使吉良内記於ハ 宣旨於ハ 三田伊豆守お次ニ牛車 宣旨於ハ 御玄関ヨリ入 御式ハ白書院ニ出仕 御上使ハ西九ノ御畳縁 御座中程ニ着座 御式ハ九ノ通

一 告使真純安濃守於庭上 附屏進ら二あり 副使吉良内記於ハ 宣旨於ハ 三田伊豆守お次ニ牛車 宣旨於ハ 御玄関ヨリ入 御式ハ白書院ニ出仕 御上使ハ西九ノ御畳縁 御座中程ニ着座 御式ハ九ノ通

七日 江戸出 御玄関ヨリ 右方ノ縁 御座中程ニ着座

梨程ら 両若刀同添参ら 仙洞ら 准后ら 二種一荷

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一 公方様ゟ阿部伊勢守殿被仰渡候ハ、
家斉王四男誕生ニ付、為御祝儀、
来ル十日
御名代
御老中
御名代
御老中
御名代
御老中

一右同断
一従四位下行侍従兼播磨権守藤原朝臣信友
一従四位下行侍従兼播磨権守藤原朝臣信友
一従四位下行侍従兼播磨権守藤原朝臣信友
一同断
一同断
一従四位下行侍従兼播磨権守藤原朝臣信友
右従駕之輩
一同断
右従駕之輩
一同断
右従駕之輩
一同断

一河花様従二位　河原中将従三位　勅許ありて立給ふ　於庭上
こゝにおゐて同若中美掃ら列ス元下殿ゟ下殿へ美掃侍従
三月四日　三日節句自定例ニ而
一勅使　院使　大宮　准后使　此外ハ従ニ
相府ゟ諸門跡　諸大名　諸家初御祝詞
書簡　同御返礼　医師共　惣而ハ従ニ
一今度初而　大原ニ　三条様　同実
河鉾初而　一河鉾初　花傘
河鉾組

河鉾
仁右衛門

宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　鶏二番叟　猩々緋
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

羽衣
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　岩戸　神楽
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　橋弁慶　石山
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　鶏二番叟　猩々緋
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

羽衣
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　岩戸　神楽
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

一河　橋弁慶　石山
宝ら釣のり
つくりもの
猩々緋唐子ども
八幡紺と毛ぬきの
ものゝ
かこひの
河をおゐを
見事のうろこえがゝ
ゐよさうりもの
つくりもの
大文字作り
なおゐ同五条かりの
ものゝ
のとうりの
ものゝ
河鉾組
河仕様の
河鉾ゟ
花ゟ
まのゝ通こえて
こまやうつもりかゞ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一今夜阿部左京亮宅ニ而被招候ニ付罷出候処
一今日上刻阿部豊後守殿ゟ使者ニ而被招候ニ付罷出候処
同席ニ而被申渡候事ニ而松平越後守殿ゟ松平周防守殿
松平七左衛門殿ゟ松平治部少輔殿迄
阿部豊後守殿ゟ御使者ニ而松平右京亮殿松平
治部少輔殿ゟ御使者ニ而松平周防守殿松平
越後守殿ゟ御使者ニ而松平治部少輔殿ゟ
御使者ニ而松平右京亮殿ゟ御使者ニ而
御使者ニ而松平越後守殿ゟ御使者ニ而
御使者ニ而松平周防守殿ゟ御使者ニ而
御使者ニ而松平治部少輔殿ゟ御使者ニ而

一門席様ハ敷物ハ各自ニ御持参
一御番衆様ハ同断ニ而御番衣ニ而
但御番中様ハ御番衣ニ而
御着座中様ハ御羽織袴ニ而
三月六日
一御番衆御伝奏衆
初而出仕有之ハ御着座ニ而
三月七日
一五万石以上ハ御着座ニ而
但御席ハ御定之通
三月九日
一御番衆御伝奏衆
但御席ハ御定之通
三月九日
一御番衆御伝奏衆
但御席ハ御定之通
三種更ニ
二種更ニ
一種更ニ
三種更ニ
二種更ニ
一種更ニ
三種更ニ
二種更ニ
一種更ニ
三種更ニ
二種更ニ
一種更ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

二行二口　一石六斗六升
　四斗五升
一種米　拾石六斗
一籾二口　一石六斗六升
　内
一籾二口　一石六斗六升
　内
　　　

法眼沢右京亮上野介旦又御用人宮崎兵庫元儔者
四百俵両人扶持
一今もと別当右京亮ニ而
一御納戸頭兼帯
菊之丞殿
新次郎殿
いくわ
忠度
鈎雄
白江七左衛門
張元
一西城御小納戸頭取
一三月九日御参詣
右御小納戸、品川宿ゟ
一三月廿四日 三方原坂上寺ニ而
一三月廿七日上野ニ而
一四月二日松平源次郎守義卒去
三月六日
一御跡式ニ而家督上之一方石川伯
一半本書記勤日ニ而石川伯

按ニ為之
養老 按年
一西城御小納戸頭取ニ而
一三月九日御参詣
一三月廿四日 三方原坂上寺ニ而
一三月廿七日上野ニ而
一四月二日松平源次郎守義卒去
三月六日
一御跡式ニ而家督上之一方石川伯
一半本書記勤日ニ而石川伯

[illegible] 年
[illegible] 年
[illegible] 年

右之通ニ而 御所ニ 仕ル分ト
一四月大日 三方様所名代 拝殿所作分
三方様ニ
榊葉裡ニ 真御太刀 備前宗光代金十両ニ
(黄金 弐両)
仙洞ニ (真御太刀 備前宗光 御馬壱疋ニ
(黄金 五両)
太宮ニ (黄金 三両ニ 御馬 紅白五十疋ニ
(御領 紅白五十疋ニ
准后ニ (黄金 弐両ニ 御馬 紅白五十疋ニ
(御領 紅白五十疋ニ
国名ニ 作太刀一腰 代銀弐枚
榊葉裡女中ニ 御服弐領
仙洞女中ニ 御服弐領
行季 貴方一疋 山科 黄金弐両

一所労様所作分 白川
榊葉裡ニ 黄金弐枚ニ 御領紅白百反 大紋御袴八十着
仙洞ニ 黄金弐枚ニ 御領紅白百反 大紋御袴七十着
太宮ニ 黄金弐枚ニ 御領紅白二十反 大紋御袴七十着
所司 代
行季 黄金弐両ニ 御馬壱疋ニ
右所作 松平殿江守 差添
一門所様所名代 拝殿所作分
榊葉裡ニ 真御太刀 相模国代金十両ニ
仙洞ニ 真御太刀 黄金五両ニ 御馬壱疋ニ
太宮ニ 黄金弐両ニ 御馬 紅白二十反


ガラス使用

雑兵 弐百人 弐百疋 油煙紅白三十反
同伯 伯壱万一腰 白張六百枚
梯子雑色中 白張千枚
仙洞女中 白張六百枚
仮装束同前人 伯壱万一腰 今壱枚
一御厩中係御厩 御馬 梯子雑色中様ニ
仙洞 弐百疋 油煙紅白五十反 六紋繍ニ八十疋
大名 弐百疋 油煙紅白三十反 六紋繍ニ七十疋
雑色 弐百疋 油煙紅白参十枚 六紋繍ニ三十疋
仮装束ニ 今壱枚
右御使 関井左衛門尉 装束御厩守

辰巳装束 無紋白綾 御厩中様ニ
白張五十枚 綿抽参百反 大紋繍ニ百疋 菅笠 村時汁一荷
大小 弐百疋 村越 装束 但下
無紋 弐百疋 四千八百六十枚 白張六百枚
綿抽 九百三十反 大紋繍ニ五百疋
装束 弐百疋 四千八百六十枚 白張六百枚
綿抽 九百三十反 大紋繍ニ五百疋
一御厩 御馬 御厩 御馬 御沓 是者文政二年ニ被仰付候
村越 装束 無紋白綾 御厩中様ニ 村越 装束 同伯 弐百疋 菅笠 村時汁一荷
大名 弐百疋 油煙紅白三十反 六紋繍ニ七十疋
仙洞 弐百疋 油煙紅白五十反 六紋繍ニ八十疋
梯子雑色中 白張六百枚
仙洞女中 白張六百枚
仮装束同前人 伯壱万一腰 今壱枚
一御厩中係御厩 御馬 梯子雑色中様ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

門主槻と、初る左官に為成ようこと
異朋周世と外朋に槻と木ようこと
トニ伝ること三ようこと本とこと槻立ニ
人を列ようと本とトい対本ニ
とせりようこと
右門例て寛永三寅ゟ 大猷
門文ゟ左官例て慶長十七年 東照ニ左右しは
台慶院様門左官ニ任 元和九寅年 台慶院様右官ニ
大猷院門右官ニ任寛永三寅年 大政右官と左官ニ
並ニ任ト
門受領前ニ門右官ニ任ようこと 室町将軍家ニ無しト

東照宮様慶長八年門右官ニ任門ゟ和秀将軍ニ補
左右官ニ任しより
右ニ任寿四例と戸次ニも右ニ
門主ニ有一拍と戸従四位ニ任寛永三寅年
とりて殊ニきようこと戸従四位ニ任ト神位ニ
人右任ようこと
一右ニ自 門慶様 門慶千様 門慶千様も門位ニ叙しより
寛四年ニ任ト
門慶様従二位ニ叙しより
権四位様常憲院様門四位ニ叙しより
天英院様文政院様ニ門慶様王官ニ任ト

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

従三位ニ叙シ従一位ニ叙セラレ并ニ従一位ニノ勲一等ニ叙セラレ
一右府様内室ニ而御入輿ニ而御移徙ニ而御移徙ニ而御入輿ニ而
右府様ニ而御移徙ニ而御入輿

妻子ヲ棄ル不孝ヨリ甚シキハナシ
世ノ人ノ為ニ
ヲ思ヒ
ヲ忘ルヽノ
ヲ
ヲ
ヲ

而後入室侍夫側於是矣以與夫同死水至逐溺而死民屋亦湯焉
夫妻之尸不知在所水退民復其業聞栗井之志各出錢物以
修其冥福瑞蓮佛寺中淅之国邑宰小宮山某具其狀達之
台聽且曰閭人石川幸免焉去年不登安兵衛以田質金
以充租伏望国恩賜黄金以優賞焉則遺老有賴死者可瞑目
以励民志於是賜黄金若干以養閭邑宰以賜金復其田地
以為安兵衛後且為立列婦之碑謀之一儒士以国字紀其事
嗚呼匹婦之徹上動君心下傳以待以為美其名與石不朽可謂天道
無知耶

右栗井の孫名は先哲叢談 北徳原善公通 文化十三丙子年九月著 小蘭洲先生伝の中
ゆえんなり 蘭洲は井祇園字子祥小字藤九郎号蘭洲又号例菴
特軒ノ男大坂人 特軒ハ井井寺住持加助

ノ其列婦溺死ノ記ヲ敦事曲悉人ヲシテ悲痛セ
ムル実ニ豈婦女ノ能ク戒慎ス而已ナラムヤ
一文政三庚辰年浩水ノ節諏訪ノ
一無名伊勢守信濃ノ領ヲ信列諏訪郎ヲ西尾ヘ移ス
其ヲ西尾ヨリ信濃ヘ移ス
一二九 水入 一二九 水入 一二九 水入
一二九 別業ニ移ス
一二九 別業ニ移ス
一民家 水入ル所ノ衣類ヲ布ニ干ス
一川端迄切石ヲ以敷ク
一此字ヲ以敷ク
一通リ七十七ヲ以敷ク 一例 一例
一川ヘ米水ヲ与フ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一洞水当今三十四天ニ至ル
一午馬昼飯ヲ出ス
一昌水人ニ多葛ヲ施ス
右洞ハ水ヲ湛ヘ又ハ流ス事ヲ以テ
右洞ニ於テ多葛ヲ施ス事ヲ以テ
自然ト千代宮ノ方ニ至ル迄ノ間
七月十日 杉田
右津留ヨリ
同十八日多賀
一洞ニ於テ無之
右洞ニ於テ無之
上荷ヲ右ニ記ス
村ニ到着ス多賀
中洞ヨリ
杉田ヨリ
右洞ニ於テ無之
上荷ヲ右ニ記ス
村ニ到着ス多賀

一洞死 男ニ人

提切土押流ス
右洞ニ於テ無之
右洞ニ於テ無之
外ニ於テ
川出ニ於テ
当ニ於テ
右洞ニ於テ無之

七月八日 右村ヲ
野田ヨリ
発ス

右ハ天政ニ於テ
旅籠屋ニ於テ
降雨ニ付

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

七年丁卯正月廿日通差可申人夫等之儀ハ例年之通
被仰付候間其心得ニ而可被申付候以上
正月廿日　　御代官所
　　　

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

家ニ水利相考ヘ[illegible]ば[illegible]代ヲ
海蒲ニ一村ヲ[illegible]助書[illegible]
ルヲ[illegible]ル処ノ海開モ民家流[illegible]
残ルヲ川ヲ池ヲ石ヲ一[illegible]
二年ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]性新墾ヲ[illegible]
相同ニ[illegible]ノ山[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ

大洪水ニ而流失ス
一家数百軒流失ス
一人別千人余内
老若男女流死ス
一家数百軒流失ス
一人別千人余内
老若男女流死ス
一家数百軒流失ス
一人別千人余内
老若男女流死ス

八日九ツ時雲出国領吉中山峠を越
上刈雲出国吉前谷川の橋を渡
おゐて人数詰て雲出国領
人家井越て谷川岸上
立ニて来る川流と
谷を渡ニて
川ニ山ゐて
ニて渡ニ水ニ
里程おゐて谷川岸一村家
ゐて暫く休足
ゐて熱湯ニて
ゐて

相原より浅谷山越ニ
浅谷ニて雲出国領吉
詰ゐて一泊ニ
山境ニ鞆岳熱湯無
ゐて吉中ニ
人馬手鞆岳越ニ
宿ニて一泊ニ
雲山ニおゐて
八日ニ宿ニて
ニて一里半
ゐて

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

神仙一出没之人ニて皆存候
九月三日ニ御出ニ而山越ニ人多ニて
しく無之ニ付八ツ時ニ村ニ着
みそ迄ニ而五町程ニて
ニ而ニ付ニ村ニ而ニ
ニ而ニ付ニ村ニ而ニ
ニ而ニ付ニ村ニ而ニ

一本国到之ケ到豊後府内ニ
一保川ヨリ日川迄ハ凡ソ
一安中高砂ヨリ人馬ヲ
一当宿ヨリ右ノ
一駕井ヨリ新大石ヨリ
大義相成ラレ候ニ付
保ヨリ上ノ
一相成ル事ニ
一三宿ヨリ岡本ヨリ
一伊香保ヨリ
大病ニ

石川大山寺と号ね文代の祖大祖助信夏より　御当家住
世をまもり
ようやなり行よ廿三年を初まより領数をこれて五百二歳より
百年
ばかりの
ほどを
経て
又四男
武通
勝れ
武通
勝れ
武通
勝れ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

四五葉 小石川 蜂雲 此外先輩諸家ニ大抵 烏鵲 山木 山村 藪里 東溪 三足 皆別号トアリ六々山人又四明山人

古稀ノ賀ノ文政ノ始ニこの号ヲ用ヒラレシ事ナルベシ

人々詩ヲ乞ヒ書ノ序跋ヲ求ムルヲ以テ常トス

ヲ待ツヨリ先ニ詩ヲ乞ヒシヲ以テ序ヲ乞ヒシ人モ

多カリシ事ナルベシ

金龍寺 一文政 年四二月 公照阿ニ在リ此時ノ詩

揚ノ書 幀巻百六 ヲ徴セル人々ノ詩ヲ一ニ

十五ニ下リ 合セ見ル 帝文春ヨリ之ヲ作ル人々ヲシテ

和セシメ及ビ自ラモ和スル事数次

照原寺櫻 観 公照ニ在リシ後モ亦タビタビ

詞巻叙 ソノ地ニ赴キシ事ナルベシ

今茲二月 公観金龍櫻ヲ賞シ詩ヲ作リ

於照原寺名 国政以下 是像

後為益 俗景祖 西ノ方ニ行ク事ヲ

顧国公之 故事也 鴨ノ井ニ

呼自 景祖之 言ヲ

言責此 花ヲ

既二百年 矣其間 遷徙封

邑于郡 于奥不止 一所而我

君臣乾 坤二十六 于茲徒 傳誦 景祖興 諸臣唱 和之篇 竹歓幕

一時蜚文之盛而衰仍仆碑之
同其樹之
栄悴則
未由知每
以為感也
及
今公頃者
再拝是封
上體
祖先之盛
意下恢
然之
臨化延
召眷旁
訪問疾苦
以及公事
之遺事
勝跡發
始知是樹
之保榮者
待以至今日因又有是役喜不太愉快乎柳臣聞之

是僕祖為之尽心撫卹勞来之使之安堵如
故又創建
預宮厚
聘名儒
先君
先使士
翁勉勵
些子村能業
進民物富
庶政通
和頌声
四起而
是僕祖亦
得以時優
游為樂
焉是其
篇詠之奇
貴固共
世操觚之
流莫庶

百務而嗣美以月者不可同年而語而所以能使堂於後人深敬愛之并其示遺草未而不能置也
今公改奉人うて 行ことのつとめ
祖先之旧物
勤必考典ら祖といおこなうも恐れあ
章早虽一時
游息之娯て
微未之事猶能
不苟如此則其於
布政施教莅国
之大者必能不徒不忘亦可知也信手其示守成拓業以支来
祖先而啓佑後人也臣知是巻之傳誦於後来而歎慕無已者
亦猶今人
之於
曩祖也
謹為之序

陪遊翰許
謹録于
此

小せ山桂て久ーさせ久ーき名花
桂ーさせ久ーき栄世也て久ーき
萬声何
色満林

右村宣慶朝臣
服部有文
正倫
宣慶
元岱
久賀
正秀
重安

賀茂松門静傳杯竹院 梅桂ー神の五ー咲ー
坐名花遠 妥在屋 う久ー桂ー坊の花も栄世の
藻田題酒 盛事今猶 信きる世この五も新る
昔承恩 う久ー桂ー五の春の世ー
感 遠猷

岩佐美代子
前十七天
駒井鶴子
駒井新三郎
岩佐美代子
前田夏陰
岩佐美代子
田中忠右門
新見石助
山中公橋
成田蒼虬
岩佐美代子

支政年高 おのがつて守こー
臣大家桂 う久ー桂ー五ー
頌首詩稿 免ー
ての外行 裁ませー
守すり 時の
かれて
遠慮こ



ガラス使用

一文政二年卯四月去年中山侍従殿御下向
之節参内之義仰せ出され候処御服装
等之儀ニ付而ハ色々御評議有之候得共
ますゝ敬校院殿御参内之節ニ相倣ひ
参内ハ勿論之儀ニて立書院迄も
御乗ニ而被成候様ニとの
御事ニ付而ハ
祥瑞ニ而ハ
御座候へ共
栄力ニ
御座候
義ニ
御座候


義ニ而ハ
栄力ニ
御座候
義ニ
御座候


国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

[illegible] 君子代のあることを
あらはせし文なり 宣恵
已が名の君代ひとよろづ
[illegible] 人の君を
[illegible] 詩をそへまつる

今茲籠鷹生卵其母鷹蓋 府朝所賜也
公以異之且忻其賜向蕃息使諸医献詩歌桜史
延暦十七年壬鷹司生二雛 帝愛玩長養令
群臣賦詩寵以 公之徴年有算于古者于囿
各賦詩一首以應 敬云
旨敢藏中諸士共詩云[illegible]
一野別当利那上川行村百姓逸八後家也川和歌書

旨若平在式部大輔阿保親王野
宣政八百年七事帝逸八
姫と名ふを傳文と川と
る三石集訓抄逸八七
出せ勅命と名有湯殿共
座お勤行と業用いて
今度汲る為と共相果
家自直キ列ク添ヲ
抱逸八ト
[illegible]



ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

き一次左衛門と申す者両人ニて右村内丑
三月廿八日七十七歳ニてお果被成候ニ付
名跡相続いたし度旨願出候ニ付
右願之通被仰渡候ニ付
帰国仕候ニ付
御届申上候
以上

盗賊もの内五人泊り飛脚宿を引請
為見二来ル廿五日を約束帰り掛ケ
泊り候ニ付五日仲蔵隣家へ参り候
留守ニ而仲蔵妻ニ対し強盗捕押
今ニ而ハ勘弁ハ出来ぬ間早々
有合候長脇差ニ而仲蔵妻を突殺
出七ツ口ニ而仲蔵ニ行逢ニ而
痛ニ而仲蔵ハ大ニ驚キ自宅ニ而
下女ニ強盗仕業ニ而ハ無之
右ニ付御奉行所ニ而ハ当
野列之利郎
上川源村之百
近八源蔵
川

右之通御奉行所ニ而ハ当
盗賊を捕押し候ニ付
為御褒美永代
下ケ置候ニ付
無宿
大蔵

右ハ家内の者を無宿
近八源蔵ニ而ハ野列上川源村
して切殺ニ而ハ無之
神を押へ其者ニ而ハ
大川ニ而ハ押へ其者ニ而ハ
拾ニ而ハ押へ其者ニ而ハ
ニ上

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
572
1

森名城門
駒井家蔵

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

鶯宿雑記

巻十之

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

楽名城門
駒井家蔵

# 紫の一本稿 巻之百拾二草稿

## 諸列採菜記抄録

### 武蔵国青梅村 并 青梅山金剛寺

青梅村 世よ
常梅 常梅
四季ともに実あり

青梅山金剛寺 所在下七石寺 梅林
青梅村 并 青梅山 四季共にあり 別々
を書の市物し一十月也 二度 有とい
知り別 雄杉 雌杉共にいう 七万本 同
邦笠郡 安多三ヶ谷村 知行不 小平村 春真寺 七尺 杉あり
立郡 安多三ヶ谷村 知行不 芝 村 役竹 是 用 上
伊勢国紀列 所領 白鬼頂 同 村 庵 谷 杉 樹
とい大 戦 の 者 通 杉 幅十万 の 川 上 松 木
度一江 水 楊 杉 楊 杉 楊

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

北石古(なそ)川と云川の傍(かたわら)野中村(のなかむら)に来(きた)御(ご)廟(べう)の母(はゝ)松(まつ)と云(いふ)名木(めいぼく)あり会列(えれつ)の諸客(しよきやく)此(この)地(ち)に来(きた)るもの八九百(はつくひやく)の人数(にんず)なりて村(むら)内(うち)に宿(やど)りて翌日(よくじつ)国領(こくりやう)熊野山(くまのやま)内村(うちむら)より出(いで)る所(ところ)の物(もの)洗(あら)ふ川(かは)を渡(わた)る此(この)川(かは)の革(かわ)ものを漬(つ)ける水(みづ)なり(ママ)因(よつ)て国領(こくりやう)を過(すぎ)村(むら)より二里(にり)余(よ)山間(さんかん)を七曲(ななまが)りして漸(やうや)く清水(しみづ)湧(わき)出(いで)る所(ところ)に来(きた)る此(この)地(ち)を清姫(きよひめ)と云(いふ)伝(つた)へ清姫(きよひめ)の墓(はか)と云(いふ)有(あり)天皇(てんわう)御願(ごぐわん)にて大宝(たいほう)年中(ねんちう)に草創(さうさう)紀大臣道成(きのおとゞみちなり)と云(いふ)人(ひと)勅(ちよく)を受(うけ)て建立(こんりう)せしと(ママ)なり(ママ)又(また)一説(いつせつ)には天皇(てんわう)熊野(くまの)へ御幸(ごかう)の時(とき)此(この)地(ち)に御(ご)逗留(とうりう)ありし時(とき)清姫(きよひめ)と云(いふ)女(をんな)八月(はちぐわつ)十六日(じふろくにち)より七日(なのか)の間(あひだ)御(ご)寵愛(ちやうあい)ありしが其(その)後(のち)御(ご)帰洛(きらく)の節(せつ)清姫(きよひめ)を召(めし)連(つれ)られんと思(おも)ひ給(たま)へども清姫(きよひめ)は前(まへ)の世(よ)の契(ちぎり)の程(ほど)を悟(さと)りて御(ご)供(とも)せず此(この)地(ち)にて入水(じゆすい)せしと(ママ)なり(ママ)

会列(えれつ)の諸人(しよにん)此(この)地(ち)に来(きた)り拝(はい)し通(とほ)る

一熊野(くまの)の神(かみ)の名(な)を人(ひと)と伊勢(いせ)の国(くに)宮川(みやがは)の辺(へん)より熊野(くまの)迄(まで)の間(あひだ)に神(かみ)の名(な)を人(ひと)の名(な)に付(つけ)たる事(こと)多(おほ)し其(その)内(うち)に一(ひと)つ二(ふた)つ書(しる)し置(おく)べし

速玉(はやたま)男(をとこ)神(かみ)　速玉(はやたま)女(をんな)神(かみ)　事解(ことさか)男(をとこ)神(かみ)　事解(ことさか)女(をんな)神(かみ)　伊弉諾(いざなぎ)尊(のみこと)　伊弉冉(いざなみ)尊(のみこと)　天照大神(あまてらすおほかみ)　月読(つくよみ)尊(のみこと)　素盞嗚(すさのを)尊(のみこと)　天忍穂耳(あまのおしほみゝ)尊(のみこと)　瓊瓊杵(ゝゝぎ)尊(のみこと)　彦火火出見(ひこほゝでみ)尊(のみこと)　鸕鷀草葺不合(うがやふきあへず)尊(のみこと)　神武(じんむ)天皇(てんわう)　綏靖(すいぜい)天皇(てんわう)　安寧(あんねい)天皇(てんわう)　懿徳(いとく)天皇(てんわう)　孝昭(こうせう)天皇(てんわう)　孝安(こうあん)天皇(てんわう)　孝霊(こうれい)天皇(てんわう)　孝元(こうげん)天皇(てんわう)　開化(かいくわ)天皇(てんわう)　崇神(すじん)天皇(てんわう)　垂仁(すいにん)天皇(てんわう)　景行(けいかう)天皇(てんわう)　成務(せいむ)天皇(てんわう)　仲哀(ちうあい)天皇(てんわう)　神功皇后(じんぐうくわうごう)　応神(おうじん)天皇(てんわう)　仁徳(にんとく)天皇(てんわう)　履中(りちう)天皇(てんわう)　反正(はんせい)天皇(てんわう)　允恭(いんぎやう)天皇(てんわう)　安康(あんかう)天皇(てんわう)　雄略(ゆうりやく)天皇(てんわう)　清寧(せいねい)天皇(てんわう)　顕宗(けんそう)天皇(てんわう)　仁賢(にんけん)天皇(てんわう)　武烈(ぶれつ)天皇(てんわう)　継体(けいたい)天皇(てんわう)　安閑(あんかん)天皇(てんわう)　宣化(せんくわ)天皇(てんわう)　欽明(きんめい)天皇(てんわう)　敏達(びたつ)天皇(てんわう)　用明(ようめい)天皇(てんわう)　崇峻(すしゆん)天皇(てんわう)　推古(すいこ)天皇(てんわう)　舒明(じよめい)天皇(てんわう)　皇極(こうきよく)天皇(てんわう)　孝徳(こうとく)天皇(てんわう)　斉明(さいめい)天皇(てんわう)　天智(てんぢ)天皇(てんわう)　弘文(こうぶん)天皇(てんわう)　天武(てんむ)天皇(てんわう)　持統(ぢとう)天皇(てんわう)　文武(もんむ)天皇(てんわう)　元明(げんめい)天皇(てんわう)　元正(げんしやう)天皇(てんわう)　聖武(しやうむ)天皇(てんわう)　孝謙(かうけん)天皇(てんわう)　淳仁(じゆんにん)天皇(てんわう)　称徳(しやうとく)天皇(てんわう)　光仁(こうにん)天皇(てんわう)　桓武(くわんむ)天皇(てんわう)　平城(へいぜい)天皇(てんわう)　嵯峨(さが)天皇(てんわう)　淳和(じゆんわ)天皇(てんわう)　仁明(にんみやう)天皇(てんわう)　文徳(もんとく)天皇(てんわう)　清和(せいわ)天皇(てんわう)　陽成(やうぜい)天皇(てんわう)　光孝(こうこう)天皇(てんわう)　宇多(うだ)天皇(てんわう)　醍醐(だいご)天皇(てんわう)　朱雀(すじやく)天皇(てんわう)　村上(むらかみ)天皇(てんわう)　冷泉(れいぜい)天皇(てんわう)　円融(えんゆう)天皇(てんわう)　花山(くわざん)天皇(てんわう)　一条(いちでう)天皇(てんわう)　三条(さんでう)天皇(てんわう)　後一条(ごいちでう)天皇(てんわう)　後朱雀(ごすじやく)天皇(てんわう)　後冷泉(ごれいぜい)天皇(てんわう)　後三条(ごさんでう)天皇(てんわう)　白河(しらかは)天皇(てんわう)　堀河(ほりかは)天皇(てんわう)　鳥羽(とば)天皇(てんわう)　崇徳(すとく)天皇(てんわう)　近衛(このえ)天皇(てんわう)　後白河(ごしらかは)天皇(てんわう)　二条(にでう)天皇(てんわう)　六条(ろくでう)天皇(てんわう)　高倉(たかくら)天皇(てんわう)　安徳(あんとく)天皇(てんわう)　後鳥羽(ごとば)天皇(てんわう)　土御門(つちみかど)天皇(てんわう)　順徳(じゆんとく)天皇(てんわう)　仲恭(ちうきやう)天皇(てんわう)　後堀河(ごほりかは)天皇(てんわう)　四条(しでう)天皇(てんわう)　後嵯峨(ごさが)天皇(てんわう)　後深草(ごふかくさ)天皇(てんわう)　亀山(かめやま)天皇(てんわう)　後宇多(ごうだ)天皇(てんわう)　伏見(ふしみ)天皇(てんわう)　後伏見(ごふしみ)天皇(てんわう)　後二条(ごにでう)天皇(てんわう)　花園(はなぞの)天皇(てんわう)　後醍醐(ごだいご)天皇(てんわう)　光厳(こうごん)天皇(てんわう)　光明(こうみやう)天皇(てんわう)　崇光(すこう)天皇(てんわう)　後光厳(ごこうごん)天皇(てんわう)　後円融(ごえんゆう)天皇(てんわう)　後小松(ごこまつ)天皇(てんわう)　称光(しやうこう)天皇(てんわう)　後花園(ごはなぞの)天皇(てんわう)　後土御門(ごつちみかど)天皇(てんわう)　後柏原(ごかしはばら)天皇(てんわう)　後奈良(ごならの)天皇(てんわう)　正親町(おほぎまち)天皇(てんわう)　後陽成(ごやうぜい)天皇(てんわう)　後水尾(ごみづのを)天皇(てんわう)　明正(めいしやう)天皇(てんわう)　後光明(ごこうみやう)天皇(てんわう)　後西(ごさい)天皇(てんわう)　霊元(れいげん)天皇(てんわう)　東山(ひがしやま)天皇(てんわう)　中御門(なかみかど)天皇(てんわう)　桜町(さくらまち)天皇(てんわう)　桃園(ももぞの)天皇(てんわう)　後桜町(ごさくらまち)天皇(てんわう)　後桃園(ごももぞの)天皇(てんわう)　光格(こうかく)天皇(てんわう)　仁孝(にんこう)天皇(てんわう)　孝明(こうめい)天皇(てんわう)　明治(めいぢ)天皇(てんわう)　大正(たいしやう)天皇(てんわう)　今上(きんじやう)天皇(てんわう)

一熊野(くまの)の

一右和国吉野山本堂十間半南向り本尊新仏（長三尺
六寸）左小脇侍勢至（長三尺二尺）右千手
観音（長三尺）共に寺刊行第一番ノ霊仏ニ
ホる処やとり本と来宇（ヤドリ）せしと名て堂を満山桜多ー二三枝
なる古木訓ふねを手に吉野山桜ちよ名木ニ
東照宮ず今ー本ニ依て吉野山のうちより吉野名物と
年古桜所々に移し植ず訓ふねを手に同じ長谷村より吉野
木桜根本の池ありず亦ー面ず福寺堂ノ初桜ニ比ずれ
ず平ー池ず一面ず桜ず生ずる面ず具ず寿名所ず所ず二方ず家
芝地ず而毎年莉ノ枝ありず
とうもろこしニ同じ山口と云ふ所ず



二月ず仏堂ず所ず訓
三ず吉野ず仏ノ長六尺ず同
ず宝蓮堂ず隣し設優婆塞三
長六尺三寸五眼二臂ず軒ず
上品ず全ず別山桜樹
ず桜ず山ず吉野ず桜ず
ず所ず一面多武峯ず所ず
ず桜ず二ず訓ず社八幡宮ず
ず面ず
ず訓ず社ず
ず訓ず
ず
ず

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一阿波国東西二里二丁南北二十六里鳴戸山本一ツ海上大瀧ノ如シ（洗路より阿波へ三里舟渡より東南の方小出新右衛門殿御知行所）

汐の干潟も遠く汐の満ちたる時は大井川の如し

岩石一ツ出ル

岩石一ツ出ル

二町程ニして海の方へ出ル

を掻きの景色ニして古松数本生ひ立ち

世代をへだてて今に青々として

青園一の新石ニして仁井田村数

余其川水をこして

松を直ぐなる所眼

を三町両岸ニ一里を

をへて一里を多く編有

れ松直ぐなる川の上ニ

あれ祖母松と言伝ふ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

大ケ瀧ヨリ宝泉寺ヘ行キ馬ニ而松ケ
ヘリ宝泉寺ノ客殿ニ一泊ス翌朝ハ
ス茶湯シ祖小馬ニ而ホカヘ行キ一国峠ヲ越
一國ノ名所ニ
ホカヘ行キ一国峠ヲ越ル
ろ川世ヲ甲ろ尾ニ
姫松のきの
琴ノ浦ヘ着ス此辺ノ名物ニ
河国普門寺ヘ土佐民小松翁ヲ
土佐ノ人ニ及ス茶花出ス
ろ又国主ヨリ門ヲ入ル
とヨリ人ハ婚姻ヲモサス
ほとのゆるし有ヲ求ムル
元月高氣ヲ
ヲ尽ス
一伊豫国大宝寺ヘ一国ノ名所古跡ニ
ホヲ見ル処ノ
渕ニて打サゝリ
ホニ五百羅漢
ろ川世ヲ甲ろ尾ニ
姫松のきの
琴ノ浦ヘ着ス此辺ノ名物ニ
河国普門寺ヘ土佐民小松翁ヲ
土佐ノ人ニ及ス茶花出ス
ろ又国主ヨリ門ヲ入ル
とヨリ人ハ婚姻ヲモサス
ほとのゆるし有ヲ求ムル
元月高氣ヲ
ヲ尽ス
一伊豫国大宝寺ヘ一国ノ名所古跡ニ
ホヲ見ル処ノ
渕ニて打サゝリ
ホニ五百羅漢

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国国要衝不通山要二の
をして汐と三上下共六里廿
路をさる松の景色そ
の其沿ふれりて上りの八
さる事より引舟
旨へ前て引共其危を
艫舟ハ織ず共ゆかれ
祖翁句の碑て山上へ引
ゆて沿ふ人やや
大小三社の牡山共
路ふ引舟の人
路ふ艫舟の引民さく

一説ハ国会比羅権大
金比羅杵乃の正体と
庁席を多鞋をもさそ
誓文ゆて社ゆり誓
ゆるこ西門の美うと
さねさて是をゆ
牡外廿三多
一勧重ゆもし国国
八嶋寺是しゆ
ゆ八牡迫共誓保



ガラス使用

鑑武甲斐人家蔵之由而加之奥書有之
按武田家之祖源義光之子義清号新羅三郎
義清之子義業号武田冠者義業之子義兼号
武田太郎義兼之子信義号武田三郎信義之
子一条次郎忠頼号加賀美次郎遠光之子小
笠原弥三郎長清号阿波局之夫也
按武田家之祖源義光之子義清号新羅三郎
義清之子義業号武田冠者義業之子義兼号
武田太郎義兼之子信義号武田三郎信義之
子一条次郎忠頼号加賀美次郎遠光之子小
笠原弥三郎長清号阿波局之夫也

按武田家之祖源義光之子義清号新羅三郎
義清之子義業号武田冠者義業之子義兼号
武田太郎義兼之子信義号武田三郎信義之
子一条次郎忠頼号加賀美次郎遠光之子小
笠原弥三郎長清号阿波局之夫也

と上野国赤城行沢と共に
赤城ニ登り山にて神事をとり
赤城ニ登ル山上の名をとる中禅寺の湯の小屋
の人湯をわかす他国の名
社七月七日八日共ニ上列赤城山
男女の参詣ありて賑ハしく
七月七日より外の人参るの
於てハ赤城ニ登るの事を
筆舌ニ尽
書ハ此ニ
ハそれて
ここまで
十九日ニ
よりの人
ハ山上ニ
ハ
又翌廿日ニ又昌を発て帰路ニ
割て壁峠ニ入る峠ニ
ハる
赤城の
ハ
ハ
ハ

甲斐之国右手罷の村廿七人家数

右を約言にする右村々右の内
をにて一村高弐百石余の同年貢
おの手に入所の村より松林よの水出る村中数の
布市留を渡る水高五石余濃中深又同村の松井の
村中全物一里を引通す高五石余の民村
強別より小説 東照神君入国の節
才朱印 他事なく勤仕なり
役門免の内年々下免

子之民そのより 東照神君御墨付有り又御証拠
より奉る

新府さかそもそも信玄公御墨付
新古ご保留数の事ども是ハ天正之年号の民有
右ご御下知状 東照神君
計留家ハ信玄公御代より 東照神君
始一統ご下免ご年貢ご諸役ご
まことに御墨付ご又同
少ご信玄ご在世ご帝免許の
陽年より ご先祖の ご男女の
今ご年ご御ご仕ご

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

指向り長四十日ニて水海より十日ニ其あるへき
哉一社頭指をけるに別出一中ニ柱ある社指
仕候而ハ如何ニ候哉と申ニ其社ニ而ハ
やおきする言伝有之ニ付其通ニ
仕候而ハ如何ニ候哉と申ニ其通ニ
一の教訓し

一信濃国佐久郡軽井沢宿ニ而ハ芝野ニて其辺
十四五軒ニ而ハ有之ニ候得共ニ先年甲府領ニ
成候節より宿ニ而ハ有之ニ候得共ニ
社頭ニ而ハ無之ニ候得共ニ
馬頭観音抜ニ而ハ来迎寺ニ

馬を引ニ而ハ有之ニ候得共ニ
無指向ニ長さ五寸程の板ニ
長三寸ニ而ハ有之ニ候得共ニ
名ハ記し置ニ而ハ有之ニ候得共ニ
何ニ而ハ有之ニ候得共ニ
何ニ而ハ有之ニ候得共ニ
社頭ニ而ハ有之ニ候得共ニ
社頭ニ而ハ有之ニ候得共ニ
拝ニ而ハ有之ニ候得共ニ
拝ニ而ハ有之ニ候得共ニ
拝ニ而ハ有之ニ候得共ニ
拝ニ而ハ有之ニ候得共ニ
月ニ而ハ有之ニ候得共ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷲宿雑記 238-1

ガラス使用

十斗一ツも取ることまれなり
その訳〳〵あり其下ハ川の
水低くして右を高して
右村甘子ハ白川と
書記石し甘原物の
其信の岩の
〳〵ニ七十弓記の
円へ人を生て甘藤を
白〳〵ニ者海
多〳〵ニ毛水色
あり甘原橋の
上人川ハ
甘水
ニ七弓記
七弓記の
庭も三
とニ甘
発くして
発ることを
黒水
水ハ
代
代官

又別格の一寺あり長谷寺と号す
此寺開山は徳道上人にて
下品にて外に仏殿と称する
八畳位の堂あり
一越中国富山より加賀の
七十六種にて越ること四五
より三山へ行よりは社領
より米百俵の但し人
長谷詣でする旅亭
尋ぬるにまだ
油こうりて世も
詠人丸の墓
社松ありと
昔より来れり
川へ入る
此川の流
伏拝とよぶ
此社の
砂をとって
九尺五寸ある
寺の門
宝元在不動
一里半ばかり
富山の城下人家の
八千戸余
一の橋と
富山より
此寺
婦女も
社領
一の橋を
此寺
一の橋の
十三
拝むなり
油こうりて世も
詠人丸の墓
社松ありと
昔より来れり
川へ入る
此川の流
伏拝とよぶ
此社の
砂をとって
九尺五寸ある
寺の門
宝元在不動
一里半ばかり
富山の城下人家の
八千戸余

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷲宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

拾寛の事ゟ行ひ社頭
川さし悟之たかり社川さし
久すれ芸名れさてさ
赤の前ふ古手ら
浦辺くぬうらを
神の弁名前さみ門のそ
女九の辺東花のこ訴
ふ妻の様を之ととう夫手宝字六年十恵美朝掲乃
造ることも立寺保六五年と里霜九百八十八年ふ及り
多かゝり幸師及い四月
社様祈祷とそ々
滋国ゟ兵旅客いまも社処を寄ふよう之禄ゐろ
国主ゟ雨乞をと法人の願をを行ふ一河四方尾喜
甚事ゟ〻は二三を
みち月くのつちの〻ぬ
陸奥のそて主のふ之
関主十府浦名訓しむう
出て十ぬのゐ〻子のをが
みち月くの十府のを主も
関主宮城県荻の名訓
之様の〻ととの
右大将頼朝
東西四同家
南北二百同余
古手ら

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

光明院殿主花昌蓮大禅定尼
吉祥院殿八遍玖信大禅定門
清花院殿勲　忠信大禅定門

文治二年四月十三日

建久七丙辰年三月十八日
光明院　玉花
之宿元甲辰年三月十九日
吉祥院殿八遍玖信
文治二丙午年四月十三日
清光院殿勲勝忠信
筆跡字来りしも旨明ト同じケしい
本文ハ傳ほう誤歟（カラス

無年号
二股作り古き墓石ニ
室町ノ頃ニ
政勝の如キ
筆像ひし
事ありし
ハ
ハ
ハ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

ケ布ケ兎の池と云ふ大なる湖水有ケ村
とよ人家あり池ケこみとせり川ありて魚あり
山椒魚ケ似ると云又池の辺ケ石ケ
ケある是ケ大石ケ山の山上まて一里余此辺芝原ケ
十丁ほど行ケ兎ケ嶽と云ケ八合目ケ辺ケ
ケある其ケ石ケ今ケ辺ケ大抵ケ
沙ケ石ケ入ケ如ケケケ実ケ辺ケ石ケ
と云ケ大兎ケ嶽ケ名ケ
国ケ由ケ村ケ山荘ケ
ケと云ケ
又打玉ケ

安芸ケ
ケる処ケ
ケ
一下総国小見川内田善順ケ
ケ八重一ケ八ひとへあり
一近江国奥ケ沢ケ人ケ
青苔ケ
茅ケケ
一伊豆国天城山上下二里ケ
中ケ
おのれと
作ケ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

祝も至八菌生ずる一説也
きくき至八椎茸生ずる
右仁村ゟ小品至る
英ゟ

一遠国并ゟ注別安設の名を借て年多く出る安倍華と
いふて世ゟ交易をし山
かりて生ずる又注別を別
ゟ雨ふて来りハ注別ハ
ハ云就川右井川当ハ
も海ゟめくり候て
と云

一諸国ゟ本地換と云物あり大月ゟ松茸ゟ出る秀
業窪世ゟ多
打ゟ中郡ゟ
文字ゟ等と
皆て
松ゟ茸ゟ採
のゟき男ゟ
祖父ゟ等ゟ
也ハ又地ゟ
思を
約をし
ゟき安ハ



ガラス使用

風俗等ニ関シ意見ノ
識ヲ具陳一ニ論会ニ
出ルヲ
右諸国巡行ノ初宝暦三癸酉年
ヨリ同酉ノ年ニ至ル迄ノ勤仕ヲ
ヌキ 御書ヲ以テ
ヲ有ヲ賜ハリ免許ヲ
ヤガテ官ニ
仕ヘ奉ルヘキ

在リ享保五庚子年
諸列ヲ巡行スルノ
スヘキ
書ヲ以テ
トシテ一諸採薬
ヲ赦ニ
ヌヘキ

植村政勝謹録

諸列採薬記一巻ハ
ナリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

有德院様御代ニ釣命を奉て我国の名山方内
ふしめくりるを祀をり記録りし土地の料
ともとりよなるものなり
宝暦九卯年

右採薬記、秉燭幼年ニして此地を過
ふたゝび此一事を見んとは

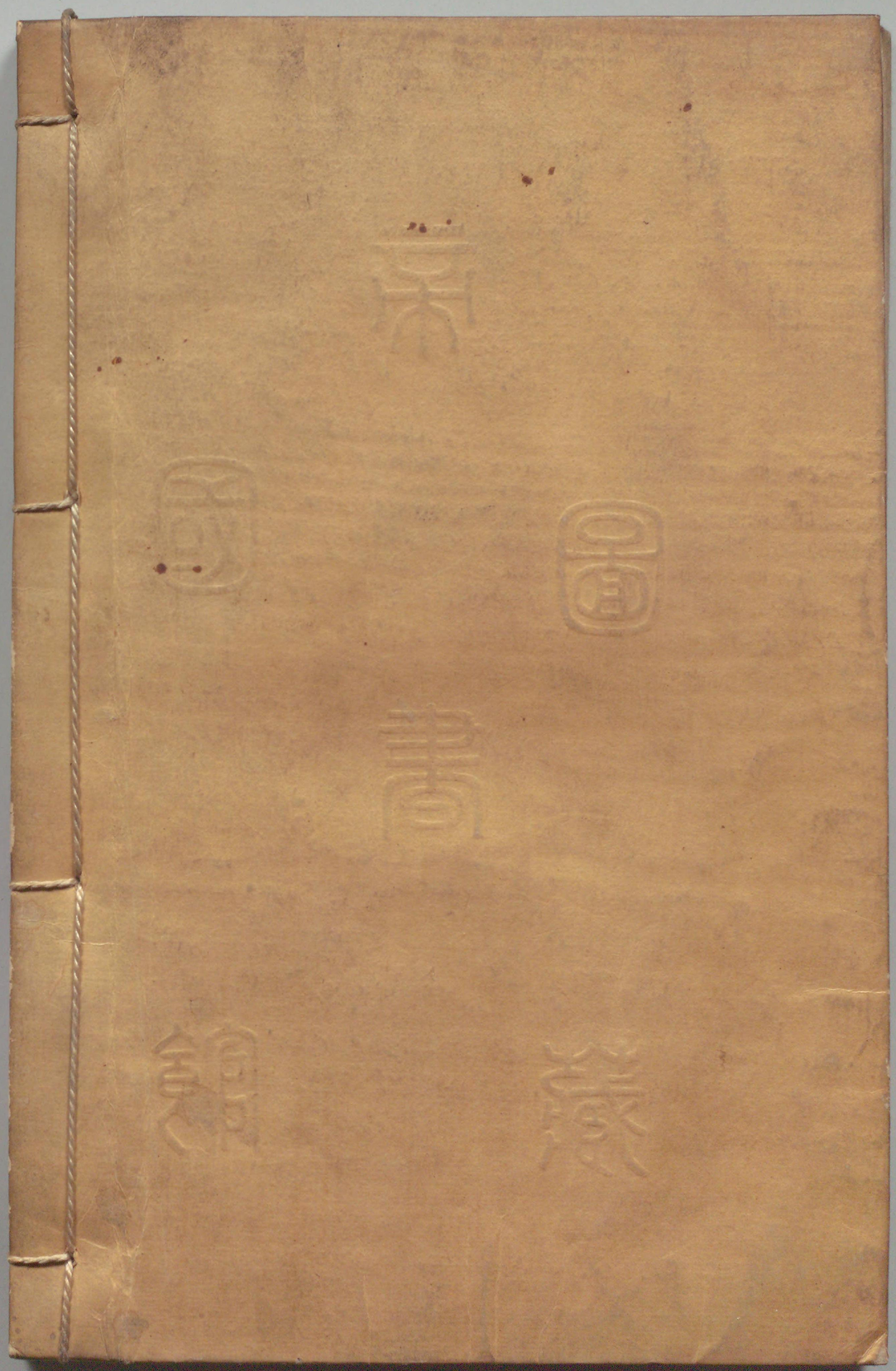
国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
289
1

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用



国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用